

実践で明らかになった遠隔授業の利点と課題

Advantages and challenges of remote lectures through various practices

福井大工¹ ○葛生 伸¹

Univ. of Fukui¹, °Nobu Kuzuu¹

E-mail: kuzuu@u-fukui.ac.jp

【はじめに】コロナ禍の影響で、福井大学では原則遠隔授業を実施している。筆者はこの一年は、リモート授業に徹し、そのノウハウを開発する年だと割り切って遠隔授業のやり方を工夫していくことにした。遠隔授業は学生にとって不利な面もある一方、様々なツールを用いることによるメリットもある。実践結果に基づき、それらの効果を考察する。

【実施の概要】表1に本年度筆者が実施した授業の一覧を示す。筆者が直接実施した多人数の授業は原則としてオンデマンドで実施した。原則として動画を15分以内に分割し、その間にクイズをはさみ、最後に300字程度の授業概要を書くようにした。授業はGoogle Classroomを使用し、授業時間中はGoogle Meetで質問を受け付けた。前期の授業では、8割程度の学生が正規の時間内に受講開始したが、後期では4割程度にとどまっている。後期にはトラブルが少なくなったため、質問も減った。課題は、Google Documentで提出するため、コメントや添削が容易である。同時に、スキマ時間に採点できる。質問のために待機している時に採点もできるので、早めに学生の理解状況を把握でき、学生にとっても早く返却してもらえるなどの利点がある。

工学部全1年生対象の講義「大学教育入門セミナー」と「科学技術と倫理」の中でグループ討論とその結果の発表を実施した。グループ討論のみオンラインで実施した。後期の途中からGoogle MeetでZoomと同様、ブレイクアウトセッションが使用できるようになったが、後期授業開始時点では対応していなかった。そこで、自由な時間に討論できるように、班ごとに「討論室」とよぶ班ごとと課題を設定し、共同編集できるドキュメントと発表用のGoogle Slideを設置した。後期には、これに加えて班ごとのチャットルームも開設した。メンバーの連絡がとれないなどのトラブルの相談もあったが、概ね順調に進んだ。発表は、オンラインで4~5班を当て発表し、詳しいコメントを加えるとともに、録画したものをクラスメンバーに公開した。

理科教育法は、講義はオンラインで行った。講義は動画を一齐に視聴してもらい、オンラインで質問・意見交換をした。模擬授業もオンラインで実施し、Classroomで意見を書く学生が記述し、それに基づき、さらなる意見交換や講評をした。

【まとめ】外部講師の授業は、一方的なりモート講義が多いが、筆者は動画と課題あるいはクイズを出題した。そのため、学生の考えの把握と、問題点を指摘しやすくなった。クイズの回答を他学生に開示するため、学生自身も多様な意見を互いに知り、意見を述べる習慣をつけることにつながるものと期待している。対面授業になっても、これらの課題や意見交換のツールの有効活用が効果的であると考えている。今後有効活用を考えていきたい。

表1; 今年度関担当した授業一覧。

科目名	開講時期	学年	受講者数	授業形式	備考
大学教育入門セミナー	前	工1	564	オンデマンド	プレゼンのみオンライン, 4クラス
生活の中の熱とエネルギー	前	共通	63	オンデマンド	演示実験動画
システム創造思考法	前	MD	5	オンライン	D「創造システムデザイン」
科学技術と倫理	後	工1	581	オンデマンド	プレゼンのみオンライン, 4クラス
理科教育法	後	工3	14	オンライン	模擬授業付
フロントランナー	後	工3	87	オンライン	外部講師 + レポート採点 + 1回講義
キャリアデザイン	後	共通	79	オンライン	オムニパス(1回世話担当)
異分野コミュニケーション	後	MD	6	オンライン	D「OTT (On the Tutorial Training)」

M, D1 とあるのはそれぞれ博士前期課程および後期課程の開講科目。